

2009年12月16日

HSBC プレミア、第2回アジアのマス富裕層調査結果を発表

～ 日本のマス富裕層の半数以上が、海外投資に関心 ～

ロンドンに本拠をおく世界有数の金融・銀行グループである HSBC は、この度 HSBC プレミアの対象であるアジア主要 8ヶ国のマス富裕層を対象として「現在の金融状況下における意識、消費行動とライフスタイルの変化、資産状況の変化、投資運用への関心」をテーマに実施した調査結果を、本日発表しました。

今回が2回目となる本調査は、アジアの主要な8ヶ国である、日本、中国、インド、台湾、シンガポール、マレーシア、インドネシア、オーストラリアの各国のマス富裕層^{注1)}に属する30歳から55歳の1,700人以上を対象に2009年9月17日から10月2日にかけて実施した意識調査です。金融危機後の世界経済の牽引役として注目されるアジア各国のマス富裕層の、次のような興味深い意識、資産状況の変化が明らかになりました。

日本のマス富裕層の56%が、海外ファンドや外国株式に関心

今後6ヶ月間の投資計画について尋ねたところ、日本のマス富裕層の56%が、海外ファンドや外国株式に関心があることがわかりました。中でも中国圏や新興国市場の人气が高く、それぞれ22%のマス富裕層が関心があると回答しました。

ただしこのような傾向は他の調査対象国においてはより一層顕著であり、中国や台湾の場合、マス富裕層の7割以上（中国77%、台湾で70%）が、今後6ヶ月間に、中国圏に投資を行う考えであると回答しました。シンガポール

（62%）、マレーシア（47%）およびオーストラリア（37%）でも、多くの回答者がアジア太平洋地域への投資を検討していました。

次頁に続く

アジアのマス富裕層の大部分が主な資産として預貯金を保有しているものの、現在の投資ポートフォリオの資産は分散化されており、投資信託、株式、保険、および不動産は既に組み込まれています。しかしながら、アジアの調査対象国と比較した場合、日本のマス富裕層のポートフォリオは現状ではまだ十分な分散化が図られていないということも、今回の調査結果から明らかになりました。

HSBC グループ香港上海銀行個人金融サービス本部本部長兼マネージングダイレクターのゴッドフリー・スウェインは、次のように述べています。「調査対象国の中でも保守的だとされる日本のマス富裕層ですが、その過半数が今後の資産運用について、海外ファンドや外国株式に関心を示しているという点は非常に興味深い調査結果であると思います。短期・中期的にみて、アジア地域のマス富裕層は、自分の持つ知識に加え、銀行やファイナンシャル・アドバイザーといった専門家のアドバイスとを組み合わせながら、より一層洗練された投資家となっていくでしょう。HSBC プレミアは、中国を始め新興国市場のエキスパートとして、HSBC グループのグローバルなネットワークに裏付けられた経験、知識、情報力、商品力をフルに活用し、日本のマス富裕層の資産形成ニーズをサポートします。」

アジア各国と比較し、資産増加者の比率が低い日本のマス富裕層

今回の調査で過去 6 ヶ月間の資産額の増減を尋ねたところ、6 ヶ月前と比べて資産が増加したと回答した人の割合は、中国では 70%（前回調査では 46%）となり、調査対象の 8 ヶ国中で最も高い比率となりました。アジア地域の個人資産の増加を中国のマス富裕層がリードしていると言える結果となりました。また、調査対象国全体を見ると、資産額が 6 ヶ月前と比べて増加したと答えたマス富裕層の割合は前回調査のおおよそ 2 倍近い結果となりました。

資産が増加したと回答した人の国別の割合

- 中国 70%（6 ヶ月前の前回調査では 46%）
- インド 68%（同 28%）
- 台湾 61%（同 33%）
- マレーシア 55%（同 35%）
- インドネシア^{注2)} 54%
- シンガポール 53%（同 23%）
- オーストラリア 42%（同 19%）
- 日本 38%（同 21%）

次頁に続く

また資産増加の理由として、調査対象者の大半が雇用所得で資産を増やしたと回答しています。国別に見ると、中国、マレーシア、シンガポールおよび日本では 89%、インドネシアでは 88%、オーストラリアでは 87%、台湾では 84%、そしてインドでは 79%でした。

今後 6 ヶ月間については、全般的に積極的な投資姿勢

今後 6 ヶ月間の投資行動について尋ねたところ、全般的にアジアのマス富裕層は、投資額を増やすことを重視していることがわかりました。今後 6 ヶ月間に投資額を増やしたいと答えたマス富裕層は、インドでは 60%、シンガポールでは 52%、インドネシアでは 51%、マレーシアと中国では 50%でした。一方、日本では同様の回答は 27%にとどまりました。中国では半数以上（52%）のマス富裕層が投資戦略についてこれまで以上に研究する意向であると答え、シンガポールでは 34%が投資対象を分散させると答えました。日本のマス富裕層の 41%は、自分の資産のポートフォリオを組み替えるつもりがないと答えました。中国を除き、調査に回答したアジアのマス富裕層の半数以上が、今後 6 ヶ月間に副収入や臨時収入が得られた場合に、それがきっかけとなって新規の投資を行ったり、投資額を増やしたり、副収入を使って資金配分の見直しを行うであろうと回答しました。また中国のマス富裕層の 54%は、主に市況に関する明るいニュースが投資のきっかけになると回答しました。

マス富裕層のメンタリティ：保守的な日本、積極的な中国・インドネシア

今回の調査では、複数の属性から安全性と成長性に対するメンタリティと行動を測定するリスク指数^{注3)}を算出しました。0 から 200 の数値のなかで、0 が安全性を、200 が成長性を重視する姿勢を表しますが、各市場は、それぞれの中間値である 100 近辺の数値を示しました。なかでも最も保守的なのは日本

(86) で、インドネシアと中国が最も積極的 (99) であることがわかりました。全体としては、すべての市場を通してバランスのとれたスタンスが重視されていることも示されました。

消費行動の変化

日本のマス富裕層の 74%（回答者の過去 6 ヶ月の支出と比較した場合の変化は 39%増加）、インドネシアのマス富裕層の 65%（8%増加）、マレーシアのマス富裕層の 54%（5%減少）が今後 6 ヶ月間に家計の支出を減らす予定であると回答しました。他方、オーストラリア、シンガポールおよび台湾では半数以上のマス富裕層（オーストラリア 67%、シンガポール 60%、台湾 56%）が今後 6 ヶ月間の消費行動に変化はないとの回答を示しました。

調査結果からは、今後アジア地域全般のライフスタイルで最も大きな増加が予想される支出項目は旅行であり、次いで外食や娯楽が復活してくる事が予想される結果となりました。しかしながら日本では、旅行（支出を増加されるとした回答の割合は 25%にとどまる）に対して支出する意欲が低いことが特徴的でした。

HSBC 第 2 回アジアのマス富裕層調査レポートの詳細は添付資料をご参照下さい。

次頁に続く

HSBC プレミア、第 2 回アジアのマス富裕層調査結果を発表/5

注記:

- 1: 個人の月収または流動資産額でみた、各国ごとの人口上位 10%にあたる経済的豊かさのある富裕層を示し、日本では金融資産 1,000 万円以上の富裕層を示します。
- 2: インドネシアは、第 1 回アジアのマス富裕層調査の調査対象には含まれていませんでした。
- 3: HSBC のアジアのマス富裕層に関する投資リスク指数は、5 つの基準を用いて成長性と安全性に対する選好の傾向を測定するものです。0 から 200 までの指数（100 が中間値）で表され、数値が大きいほど成長性を重視する傾向が強く、数値が小さいほど安定性を重視する傾向が強いことを示します。詳細は、添付の「第 2 回アジアのマス富裕層調査」のレポートをご覧ください。

HSBC グループ

HSBC グループの持株会社である HSBC ホールディングス plc は英国に本部を置いています。HSBC グループは世界で 1 億の顧客に対してサービスを提供しております。HSBC グループは、ヨーロッパ、アジア太平洋地域、アメリカ大陸、中東、アフリカにまたがる 86 の国と地域に 8,500 を超える拠点を擁し、2009 年 6 月末現在 2 兆 4,220 億米ドルの総資産を持つ世界有数の金融グループです。

日本における香港上海銀行

HSBC グループの母体行である香港上海銀行(本店・香港)は、日本で 140 年以上営業を続けており、事実上、日本で最も長い歴史を持つ銀行です。現在、東京と大阪に支店を展開しています。法人向けの金融業務、プライベートバンク業務や HSBC プレミアなどの個人向け金融業務を提供しています。

HSBC プレミア

HSBC グループの個人向け金融業務で、成長が著しいマス富裕層にグローバルな個人向けウェルスマネジメント・サービスを提供しています。2000 年にサービスを開始し、2007 年 5 月には、サービス内容などを一新したインターナショナル・サービスを開始しました。すでに、世界の 43 の国と地域で 300 以上の HSBC プレミアセンター（店舗）が設置されており、260 万人以上の顧客にサービスを提供しています。日本では、お預り資産残高が 1,000 万円以上のマス富裕層のお客様のための専門銀行サービスとして、クオリティの高い個人向けウェルスマネジメント・サービスを提供します。日本では、2008 年 1 月にサービスを開始しました。これまでに赤坂、銀座、広尾、丸の内、横浜、池袋、神戸に HSBC プレミアセンターが開設されており、日本全国の HSBC プレミアセンターの支店網は 7 店舗です。

以上



第2回 アジアのマス富裕層調査

2009.12

HSBCプレミア 第2回アジアのマス富裕層調査

- アジア地域のマス富裕層に関して、ライフスタイル、貯蓄・投資・消費動向などを比較した、第2回目の調査^{注1)}
- 調査対象は8カ国：オーストラリア、インド、インドネシア^{注2)}、日本、中国、マレーシア、シンガポールおよび台湾
- ニールセン社への委託により、2009年9月17日から10月2日にかけて、アジアの8カ国で一斉にオンラインでの調査^{注3)}を実施
- 個人の月収または流動資産額で見た、人口の上位10%に属する30歳から55歳の1,700名以上が本調査の対象

注記：

- (1) 第1回調査は、2009年4月23日から5月4日にかけて実施。
- (2) インドネシアは、第1回アジアのマス富裕層調査の調査対象外。
- (3) インドネシアについては直接面談方式で調査を実施。

地域別の調査結果

マス富裕層の定義

地域	月収	流動資産総額	サンプル数
オーストラリア	5,200豪ドル以上 (3,640米ドル以上)	200千豪ドル以上 (140,000米ドル以上)	218
インド	SEC A1/A2 ¹	2.5百万ルピー以上 (49,250米ドル以上)	223
インドネシア	3,500,000インドネシアルピア以上	500百万インドネシアルピア以上	203
日本	666,667円以上 (6,925米ドル以上)	10百万円以上 (103,870米ドル以上)	206
中国	12,000人民元以上 (1,800米ドル以上)	500千人民元以上 (75,000米ドル以上)	240
マレーシア	5,000リンギット以上 (1,380米ドル以上)	200千リンギット以上 (55,200米ドル以上)	221
シンガポール	6,000シンガポールドル以上 (3,996米ドル以上)	200千シンガポールドル以上 (133,200米ドル以上)	207
台湾	70,000ニュー台湾ドル以上 (2,100米ドル以上)	3百万ニュー台湾ドル以上 (90,000米ドル以上)	200

注記：

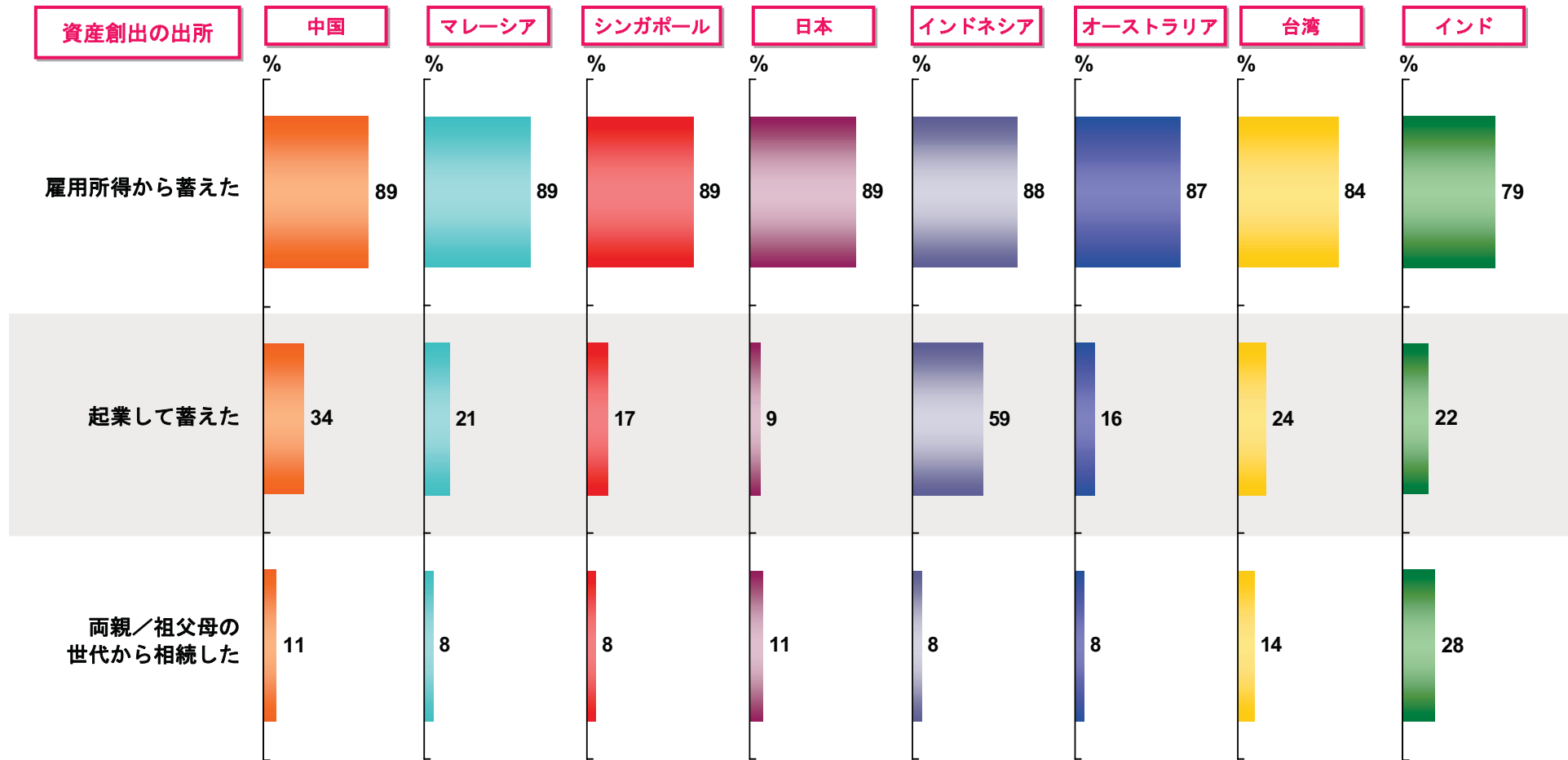
- (1) インドの社会経済的上位階級で、主に会社経営者、会社役員、専門職および所得水準の高いビジネスマンで構成される。この階級の90%超は大学卒業生。
 (2) ()内は、米ドル相当額でみた月収および流動資産総額。

調査内容

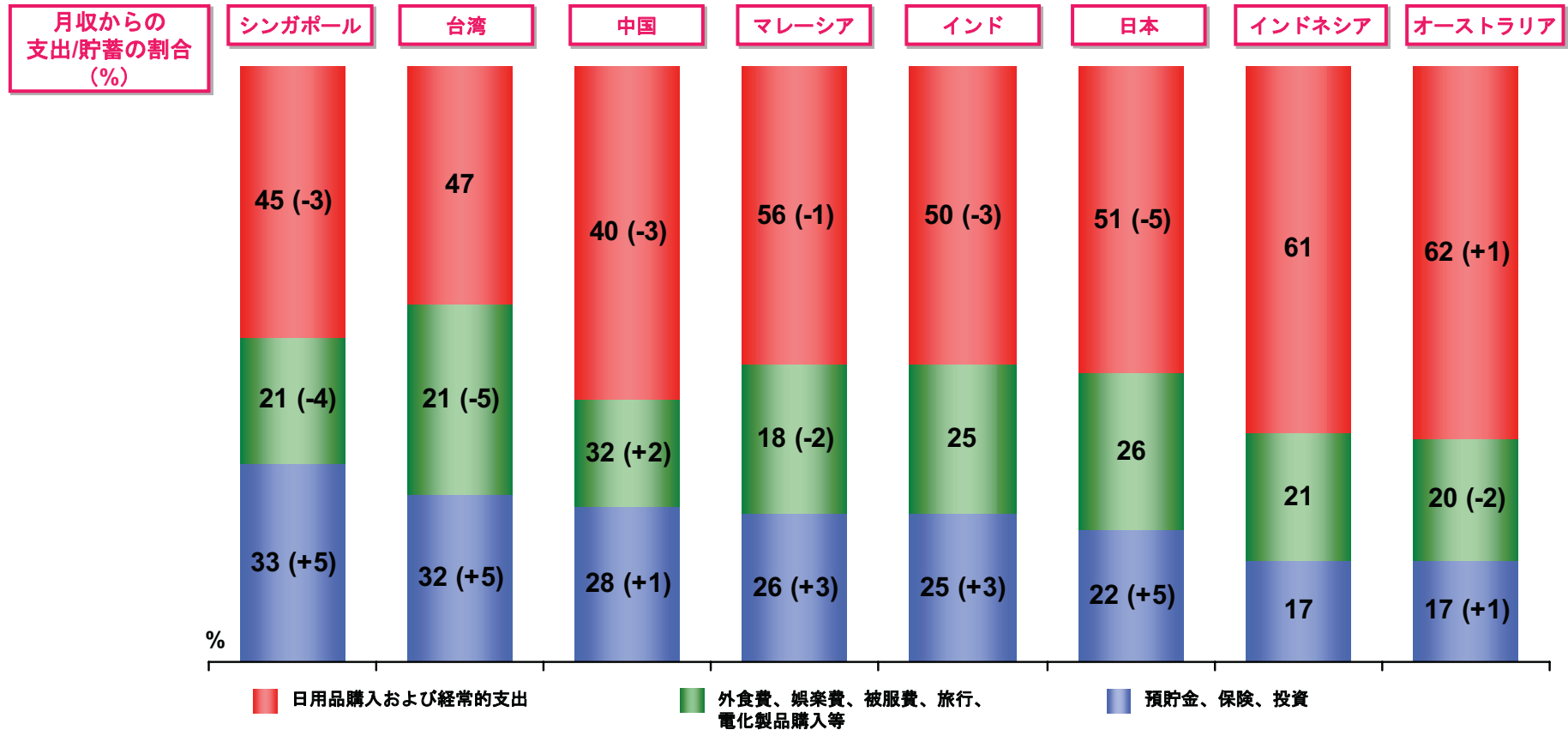
- アジアのマス富裕層のプロフィール
- 投資行動
 - 純資産の増減
 - リスクに対する姿勢
 - 資産運用計画
- HSBCアジアのマス富裕層の投資リスク指数
- 消費行動

アジアのマス富裕層の プロフィール

アジアのマス富裕層の資産は雇用所得から創出

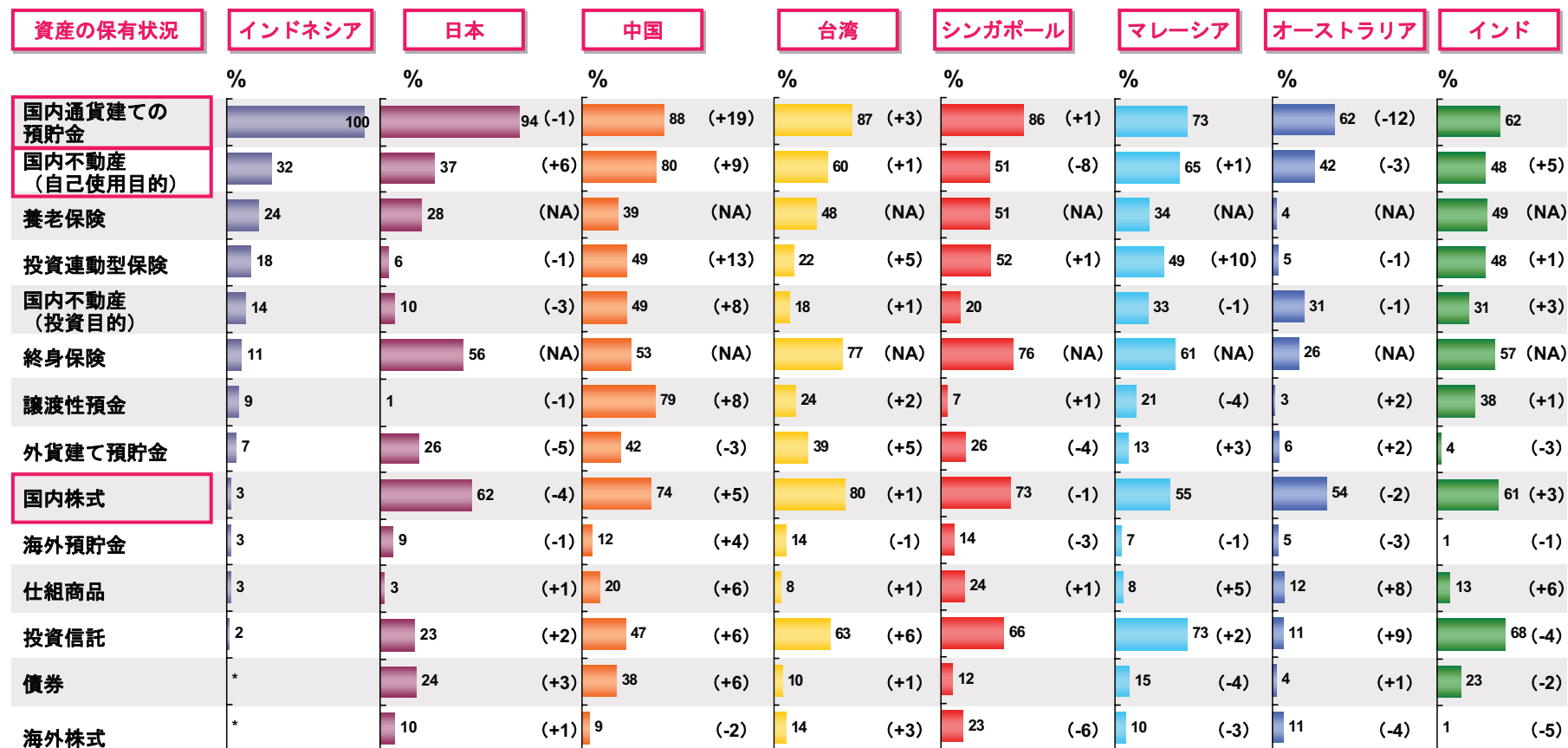


最も貯蓄率が高いのはシンガポールのマス富裕層（33%）
 逆に貯蓄率が低いのはインドネシア（17%）とオーストラリア（17%）



注記：
 (1) 端数処理の関係で、合計が100%にならない場合がある。
 (2) () 内は第1回調査時からの変化を示す。

アジアのマス富裕層は、資産は主に預貯金、株式、不動産で保有 日本は特に預貯金、国内株式に傾斜



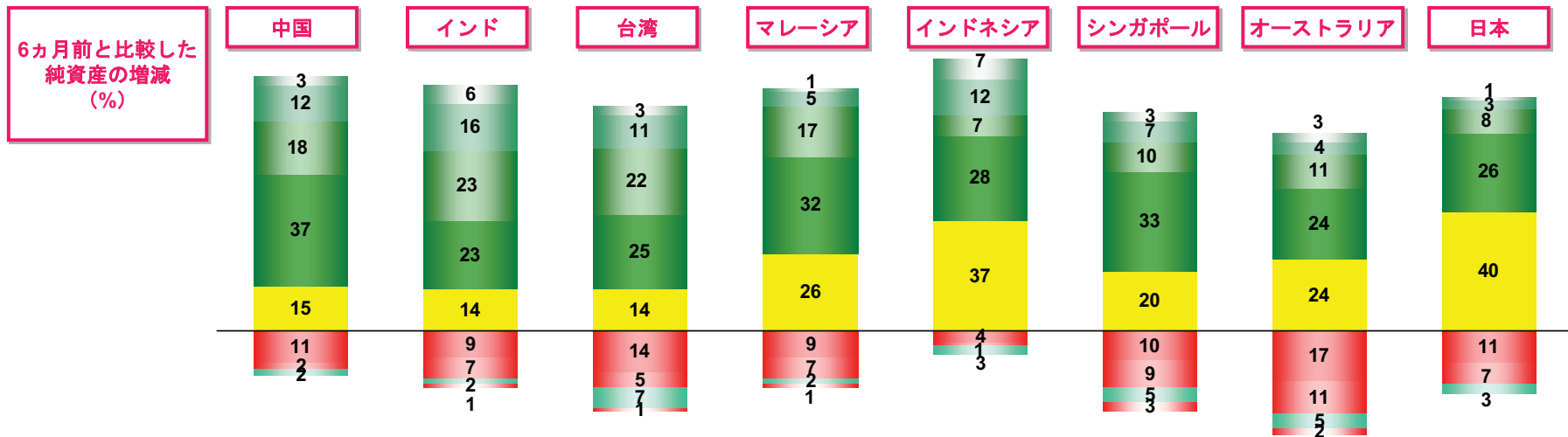
注記:

()内は第1回調査時からの変化を示す。

NA=第1回調査時には設定されていなかった選択肢。

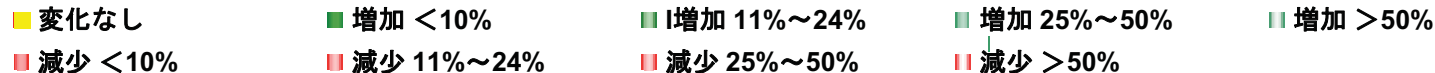
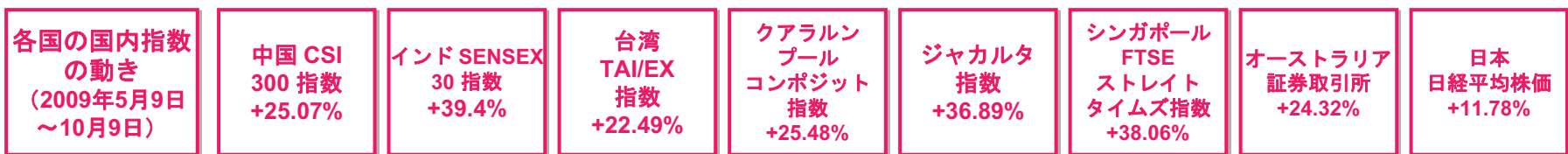
アジアのマス富裕層の 投資行動

中国で調査に応じたマス富裕層の70%は最近6ヵ月間で純資産が増加
これに対してオーストラリアの富裕層の35%は資産が減少



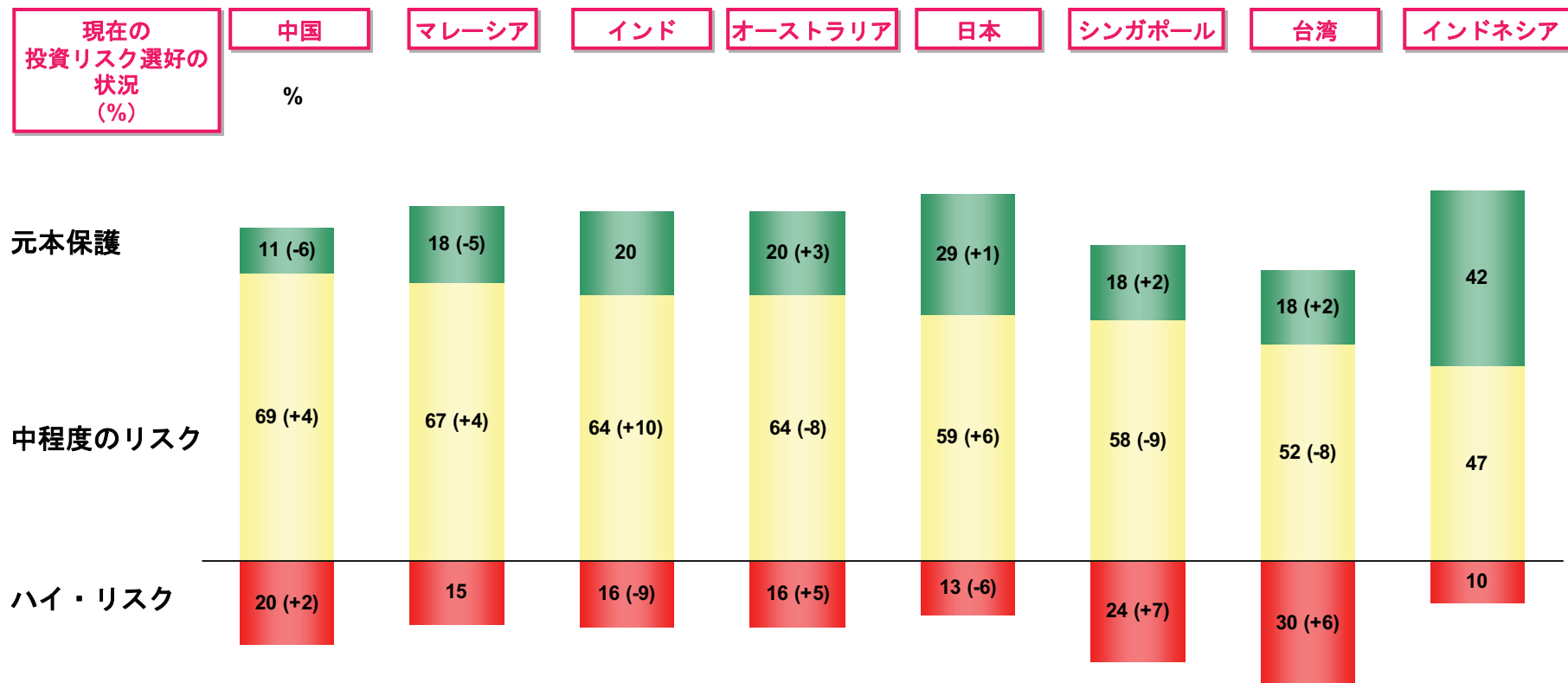
純資産総額の増加率

	中国	インド	台湾	マレーシア	インドネシア	シンガポール	オーストラリア	日本
第2回	70%	68%	61%	55%	54%	53%	42%	38%
第1回	46%	28%	33%	35%	NA	23%	19%	17%



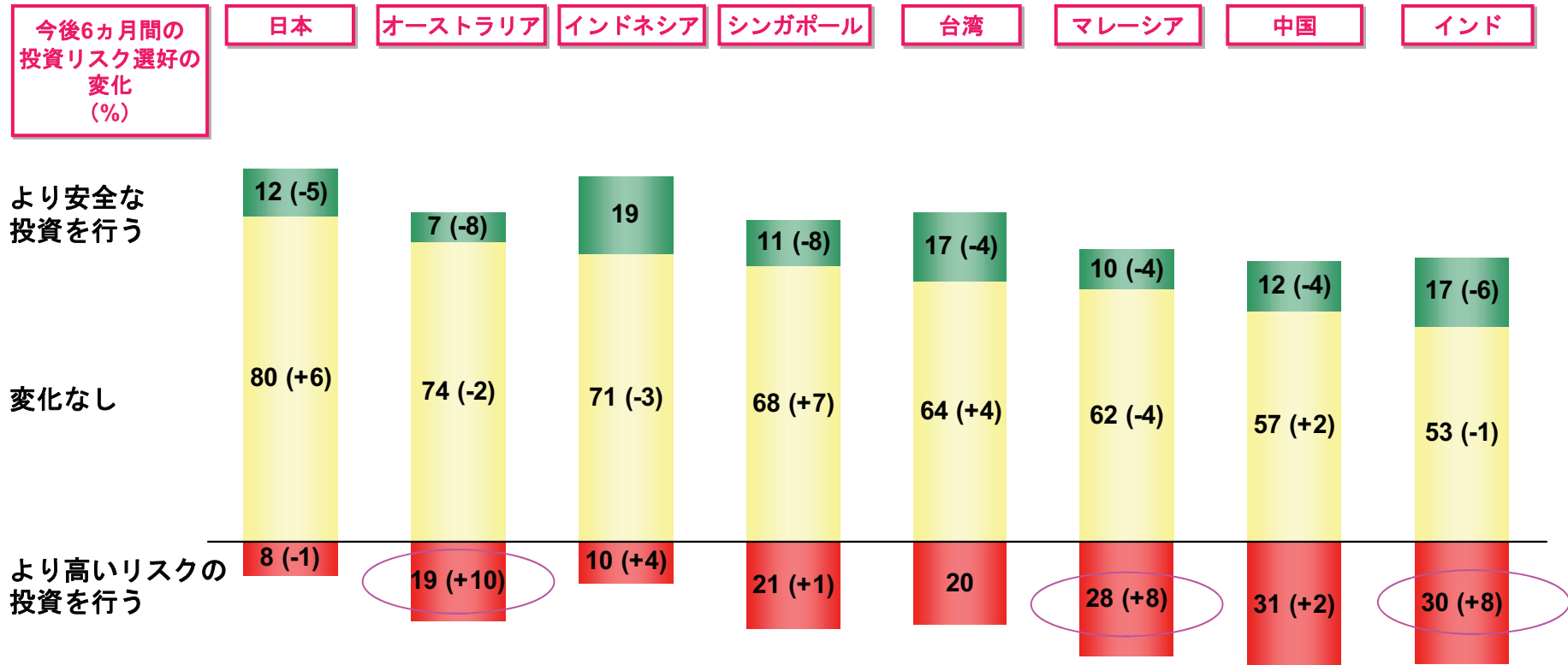
注記：
国内指数の変動は、第2回調査で「最近6ヵ月」とされた期間における変化を示す。

アジアのマス富裕層の多くは、中程度のリスクの投資を行っていく意向
 日本とインドネシアは他の調査対象国と比較して、元本保証を望む傾向が高い



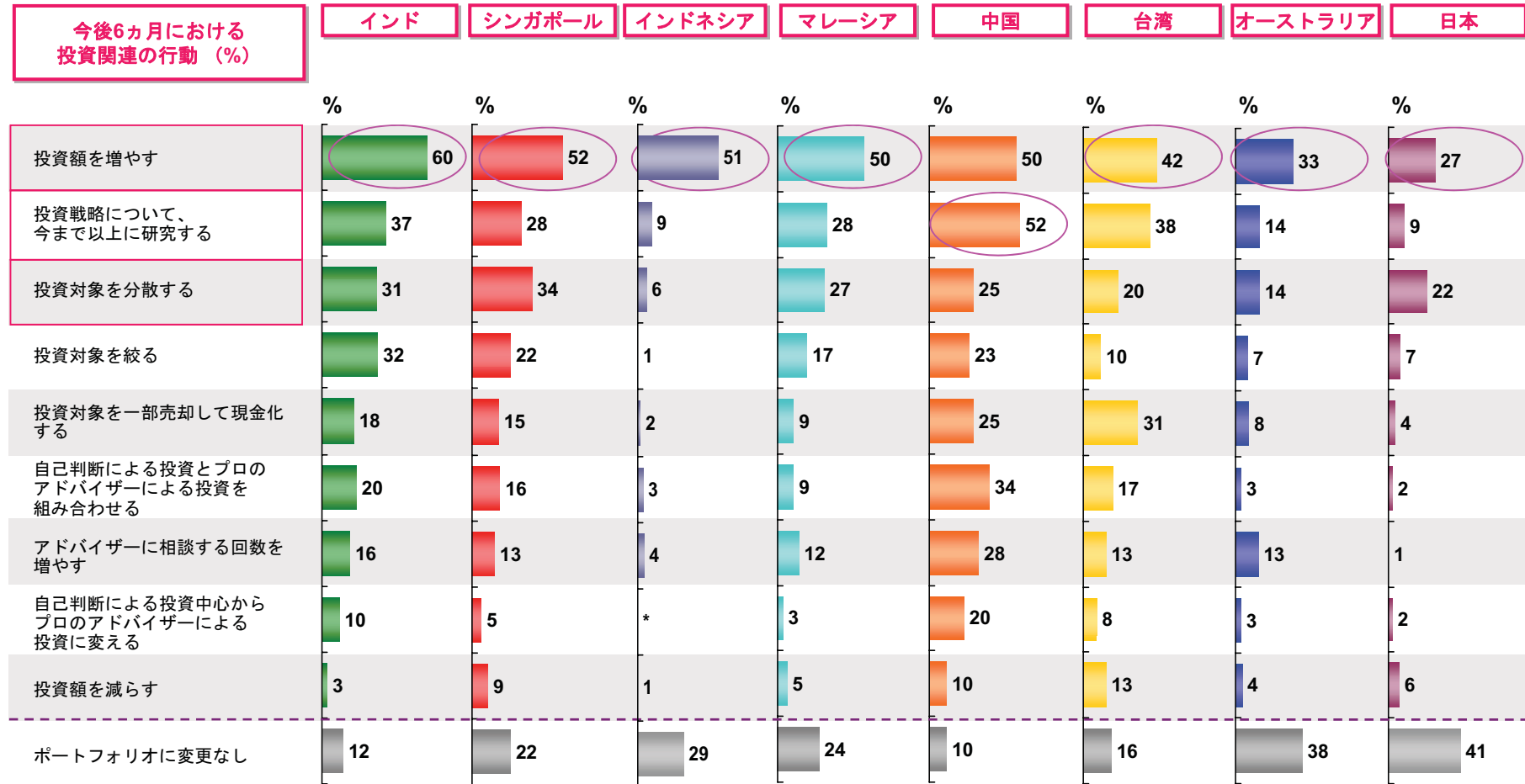
注記：
 () 内は、第1回調査時からの投資リスクに対する姿勢の変化を示す。

今後6カ月間の投資リスクに関しては、ハイリスク投資を視野に入れる投資家が増加するも、大部分は現在の投資リスク選好を維持する構え

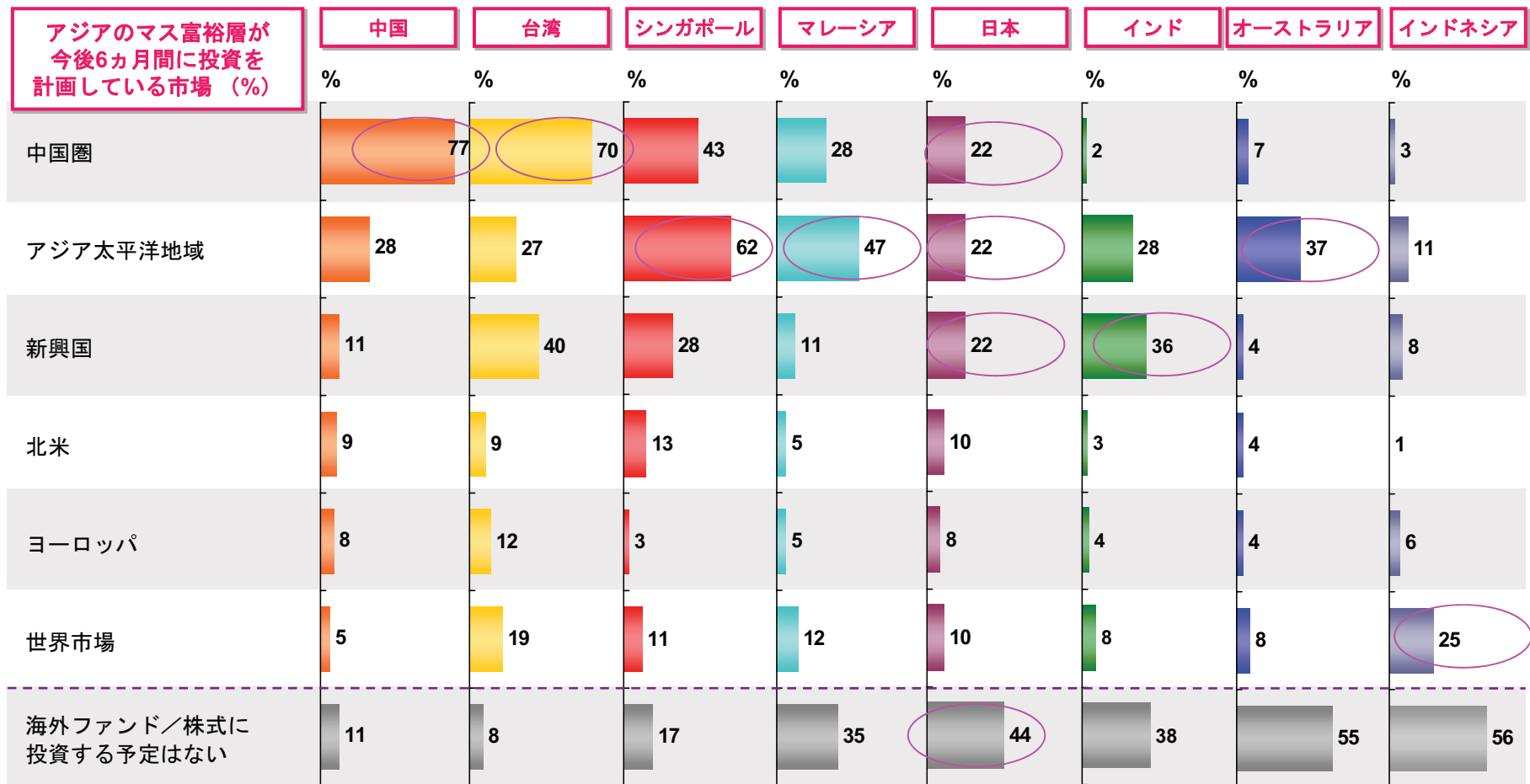


注記：
 ()内は、第1回調査時からの投資リスクに対する姿勢の変化を示す。

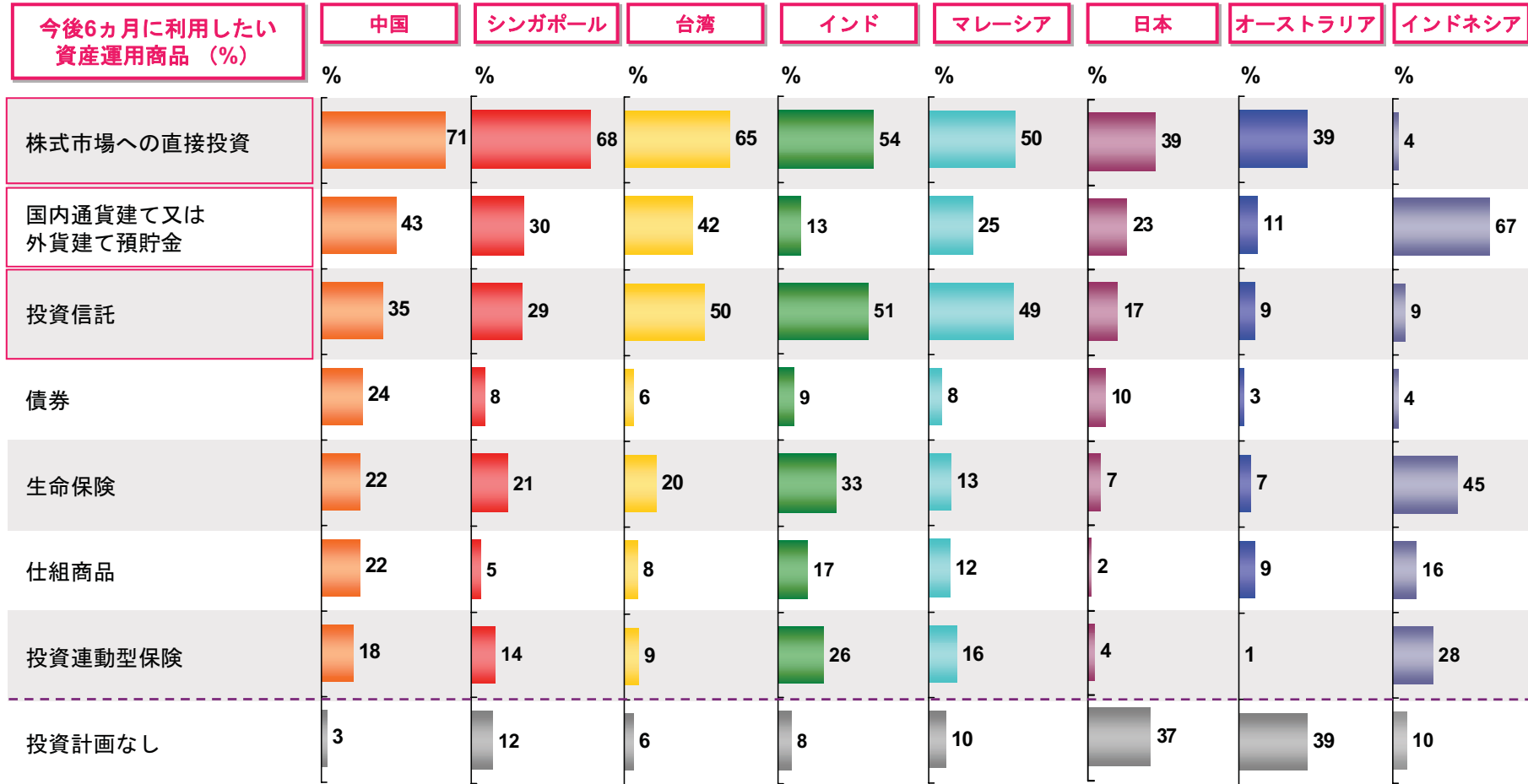
アジアのマス富裕層は、投資額の増加と投資対象の分散化を図る意向で投資戦略についても、これまで以上に研究する考え



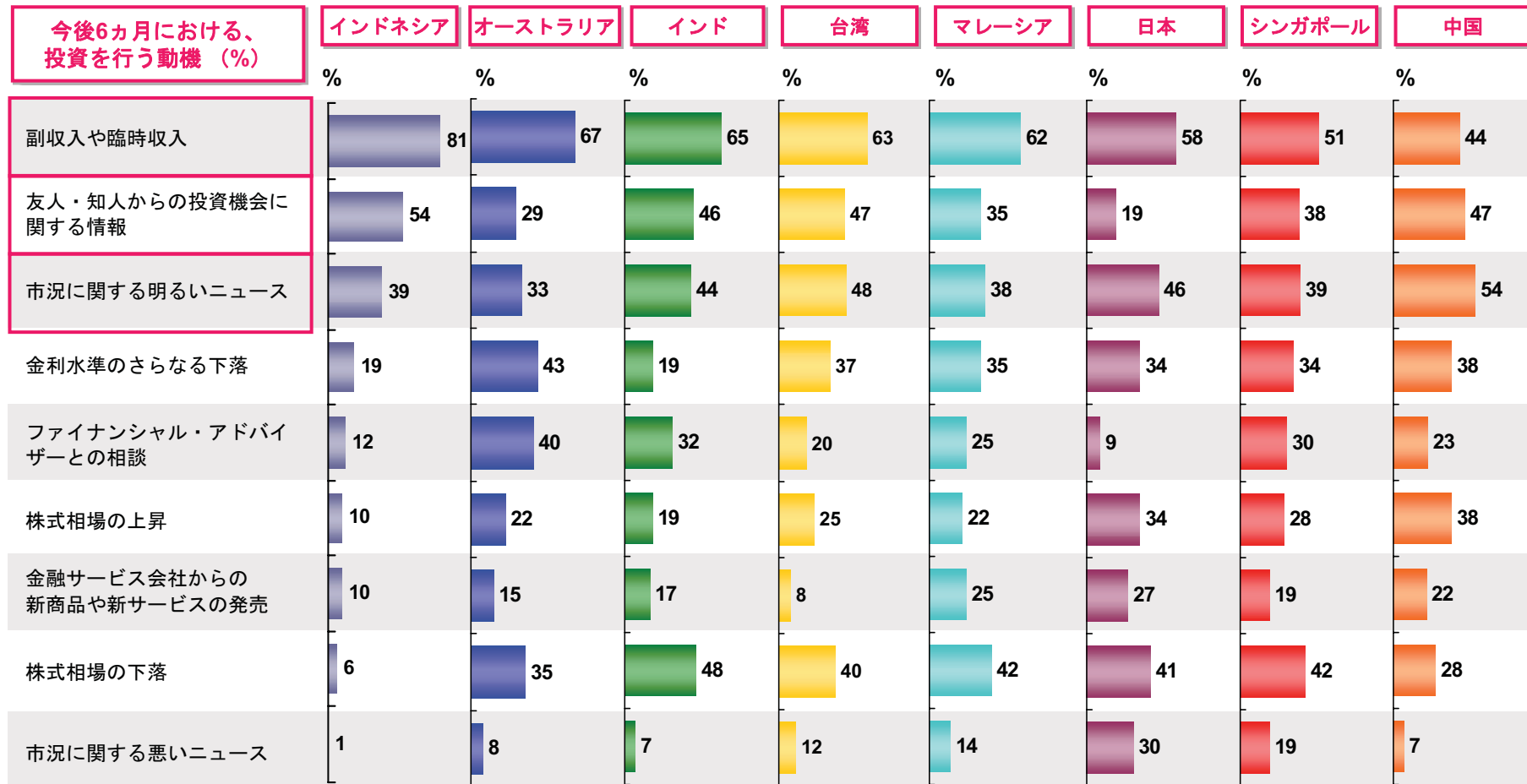
日本のマス富裕層の56%は、海外ファンドや外国株式に関心 アジアのマス富裕層が投資計画のある市場は、中国圏や新興国など



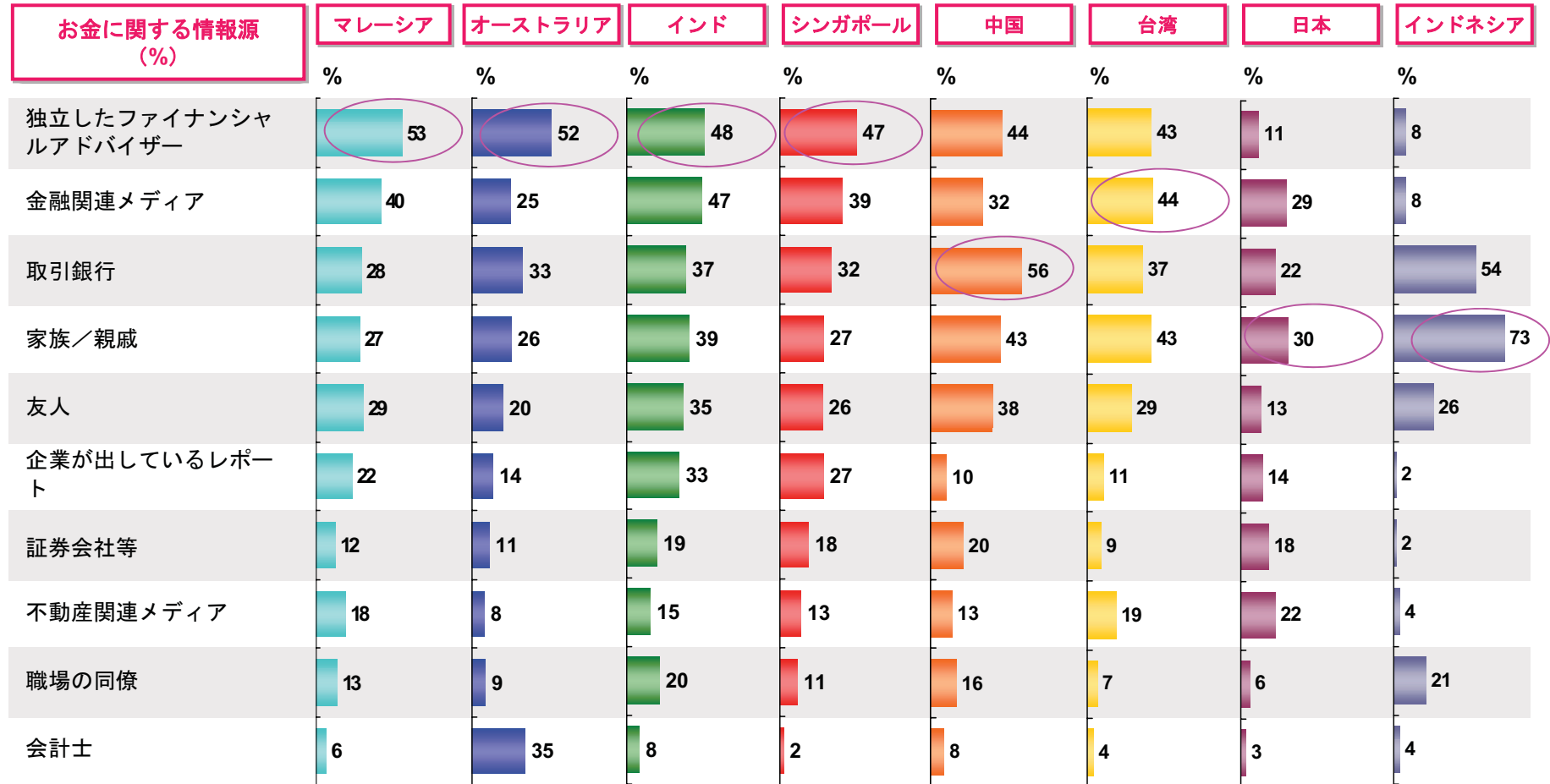
アジアのマス富裕層の資産運用対象は、株式、預貯金、投資信託



投資を行なう動機として、最も影響する要因は 副収入や臨時収入、市況に関する明るいニュースと友人からの投資情報

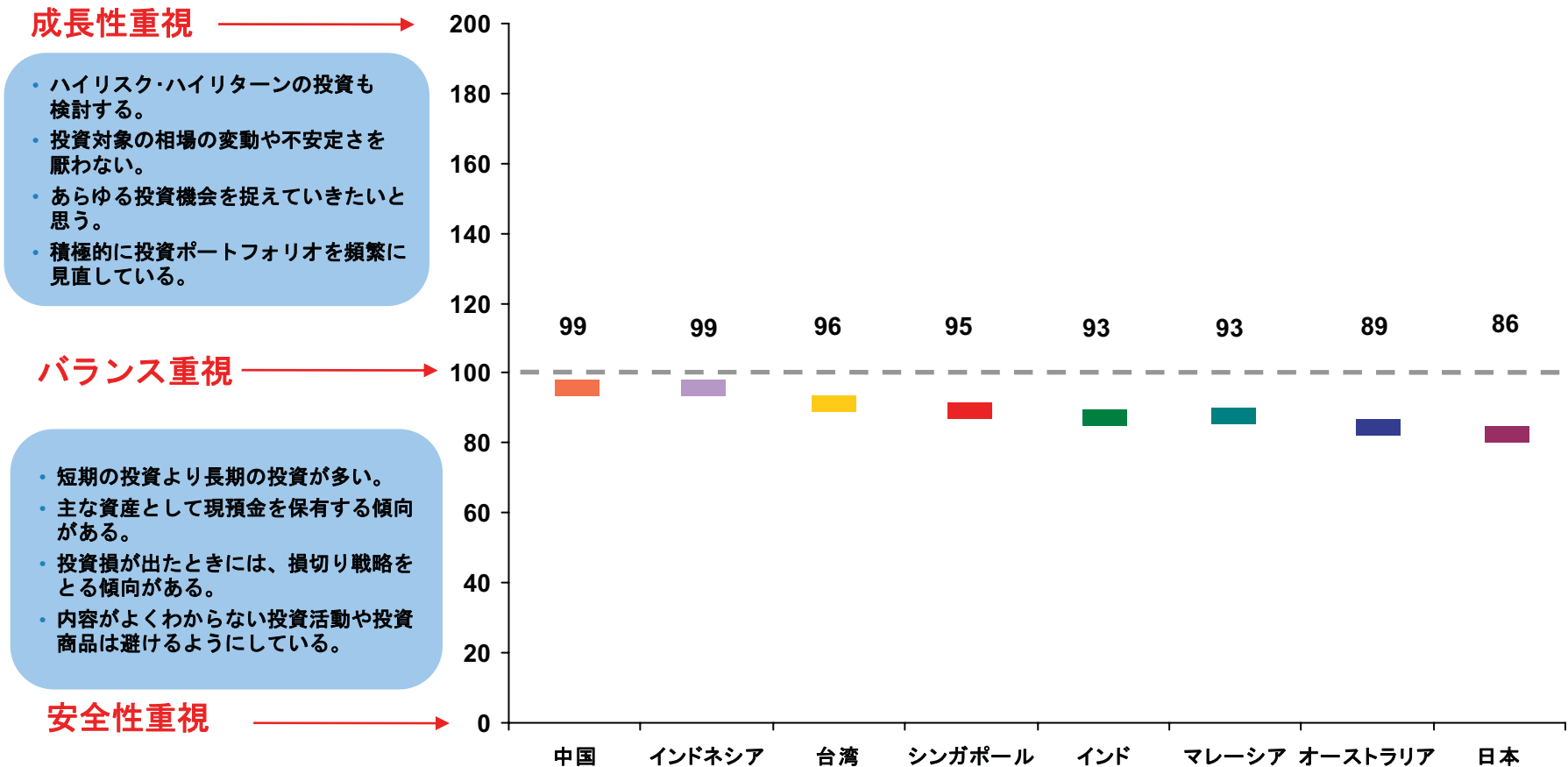


アジアのマス富裕層のお金に関する情報源は、
 独立のファイナンシャルアドバイザー、金融関連メディア、取引銀行、家族・親戚



HSBCアジアのマス富裕層の投資リスク指数

アジアのマス富裕層は、安全性と成長性とのバランスを図った投資傾向



成長性重視

- ハイリスク・ハイリターンへの投資も検討する。
- 投資対象の相場の変動や不安定さを厭わない。
- あらゆる投資機会を捉えていきたいと思う。
- 積極的に投資ポートフォリオを頻繁に見直している。

バランス重視

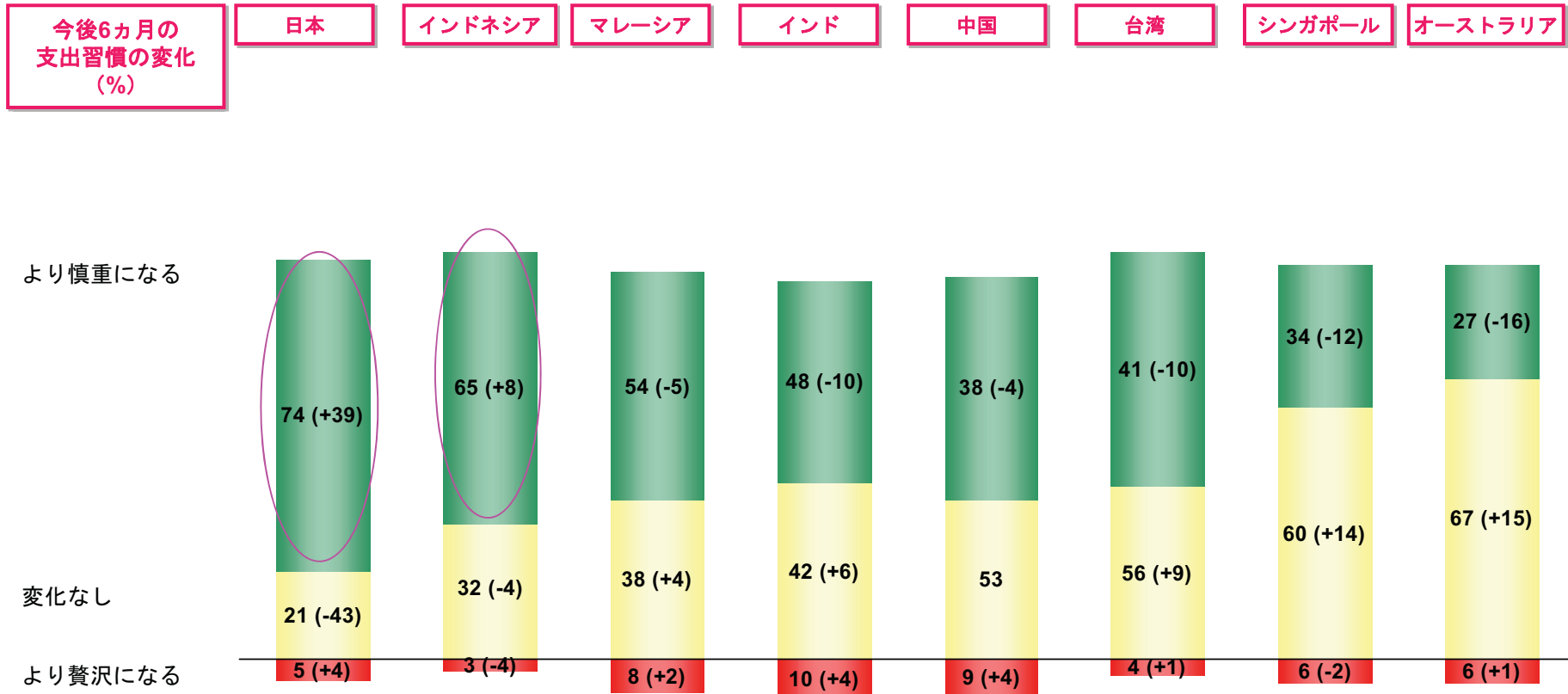
- 短期の投資より長期の投資が多い。
- 主な資産として現預金を保有する傾向がある。
- 投資損が出たときには、損切り戦略をとる傾向がある。
- 内容がよくわからない投資活動や投資商品は避けるようにしている。

安全性重視

注記：
0から200（100が中間値）の範囲で、数値が大きいほど成長性重視の傾向が強く、数値が小さいほど安全性重視の傾向が強いことを示す。

アジアのマス富裕層の 消費行動

アジアのマス富裕層の中で、日本とインドネシアのマス富裕層は、今後6カ月間に支出を慎重化する見込み



注記：
 () 内は、本調査における回答者の過去6カ月と比較した支出習慣の変化を示す。

アジアのマス富裕層が、今後6ヵ月間に支出計画があるとした一番の項目は、旅行。
 しかし日本のマス富裕層では、旅行は25%にとどまり、むしろ外食や娯楽が中心。

